

未来型農業への挑戦 安定した農業経営を目指して

有限会社大崎農園 代表取締役

やました よしひと

山下 義仁さん

Yoshihito-Yamashita

鹿児島県管轄郡大崎町にある有限会社大崎農園。この大崎農園は、代表取締役の山下義仁さん、取締役農場長の中山清隆さん、取締役生産管理長の佐藤和彦さんの大学時代の同級生3人が脱サラをして、平成14年11月に設立した農業生産法人である。主要作物は小ねぎで、年間生産量は160トン、そのほかに、レタス2ha、ミニ大根1.5ha、青首大根9haを栽培している。

「3人は、東海大学のライフセービングクラブで、同じ釜の飯を食った仲間です。今の会社は『いつか3人で仕事をしよう』という大学時代の口約束があったから」と語るのは代表取締役の山下さん。

そんな山下さんに、大崎農園での取り組みや、農業に対する思いなどを語っていただいた。

農業を始めたきっかけは

大学卒業後、福岡県で輸入販売をする商社に就職しましたが、大学時代の親友との約束を実現するため、また、家業の水産会社を自分の代で衰退させたくないという思いから、大崎町へUターンしたことがきっかけです。

Uターン後、家業のチリメン漁に従事する傍ら、何か新しい事業にチャレンジできないだろうかと考えていました。そんな折、ハマグリを養殖しながら、ネギを栽培していた先輩から「農業は面白いよ。これから農業の時代が来る

農業生産を通して、地域の発展に貢献したい

ぞ。お前もネギを作ったらどうだ」という誘いをもらい、新たな挑戦の場として農業の世界に飛び込むことにしました。

未知の分野への挑戦の上、地域の推奨品目ではないネギで就農したため、周囲に相談できる農家もいなければ、サポートしてくれる人もいませんでした。そのため、独学で勉強し、全国各地の先進地をできる限り視察するなどして、技術のノウハウの取得に努めました。また、この先進地視察を通して、ネギだけで年間1億円以上の収益をあげる生産法人があることを知り、農業の可能性を認識できたことは、その後の経営に大きな影響を与えてくれました。

大崎農園の特徴は

これまで勘や経験でやってきたことを皆が理解できるようにマニュアル化しています。マニュアル化に当たっては、ローテクですが、まず生産過程の記録を、3年間取り続けました。

このデータから、何時どれ位の植付けが必要で、どのような管理作業をしなければいけないのかが分かりますので、これに基づき、長期(年間)、中期(月間)、短期(週間)の計画を立て、作業工程ごとにマニュアルを作成しました。これにより、経験の長い短いに関係なく、すべての従業員が『この作業は何の



「3人で分担しながら経営しているようなもの。今こうやって注目してもらえるのも中山君と佐藤君がいるから」と山下さん。(写真左から、中山さん、山下さん、佐藤さんの順)

ために必要で、何時までに終わらせなければいけないのか』『この作業のポイントは何で、この次には何の作業をしなればいけないのか』を共通認識として持つことができるようになり、作業効率の改善と併せて人件費が削減できました。また、必要以上に土壌改良資材を投入したり、農薬を散布しないので、経費が削減されるとともに、安心・安全な農産物が提供できています。

今後の取り組みについて

私たちが農業を始めて10数年。新規就農の延長線上にあることに変わりはありませんが、生産のプロとして自信を持つていますし、これからも生産第一主義で、品質にこだわった取り組みをしていきたいと思っています。

また、これまでは施設園芸を中心に

取り組みできましたが、地元大崎町でも高齢化などにより離農される方が増えています。そのような方々の農地や、早期米収穫後の休耕田を有効に活用させてもらうなどして農地を集約し、労働力に余裕のある冬場に、鹿児島島の温暖な気候を利用した露地野菜の栽培に本格的に取り組みたいと考えています。そして、このような取り組みを通して、地域の受皿としての役割も担っていけるのではないかと考えています。

農業の魅力とは

農業の魅力は、物づくりの原点で、大きく言えば日本の食を担っているということ。そういうプライドがあるから、農業を続けられます。確かに、農産物を作るのは楽しいですが、ただ楽しいだけでは生活はできません。いかに工業製品並に安定した生産をし、安定した価格で、安定した販売につなげられるかだと思います。この可能性を実現するためには、それなりの努力が必要ですが、がむしゃらに取り組めば、必ず助けしてくれる人が現れたり、仲間も自然にできてくるものです。いろいろな方との出会いがあり、いろいろな輪が広がるということも農業の大きな魅力のひとつだと思っています。

これから農業を考えている人へ

農家の後継者の方には、今の基盤の中で経験や実力をつけてから、自分がやり

たい方面へのチャレンジを薦めます。

また、新規就農する方は、最初のうちは労働力が乏しいので、推奨品目といわれる品目を栽培することから始め、販売はJAに任せるという既存のシステムを活用することを薦めます。まずは生産に集中することが大切で、実力が付いてから、自分で販路を拡大したり、新たな品目にチャレンジした方が良いと思います。

いずれにしても、ただ農業をやるのではなく、栽培日数や水分値、土壌診断といったデータをしっかり記録に残し、活用しながら農業をすることで、ほかの人が5〜6年かかるところを3年到達でき、5年たてば10年記録をせずにやってきた人と、随分な差が出ていると思います。

農業に失敗はつきものですが、その失敗を反省し、その失敗から出てきた課題を次の栽培に生かす農業をしてほしいと思います。



選別のマニュアルでは、自分でも買いたくなるような選別をするように指示されており、写真を使った細かい手順も示されている。大崎農園のブランド「浜っ子ねぎ」は、県の「かごしまの農産物認証」も取得している。